

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員出席の会議にて理念の共有を図っています。	法人の理念と共に職場の理念を掲げ、「笑顔・協力・初心」の具体的な目標を職員皆で考え、挨拶・感謝・あたたかい心・居心地良い空間づくり・心に寄り添う等々、具体的に日々のケアに反映できるよう掲示し、共有している。管理者は「笑って過ごせる」事を大切にしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて情報を頂き地域の行事に参加しています。	開所1年目を迎え、地域での行事や文化祭など参加したり、地域のコミュニティセンターで月2回の転倒予防教室にも利用者数名が参加し、顔馴染みの方も出来てきている。市報には入るようにはなったが、町内の自治会参加にはまだである。今後は地域の一員として、利用者が暮らしていけるよう継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて出席者に近況報告させて頂き認知症への理解と支援について話し合いが持たれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてご利用者様の近況報告をさせて頂き、意見を頂いています。	月に2回の運営推進会議が行われ、記録の整備もなされている。市役所職員・包括支援センター・地域の方等の参加で、事業所の様子やサービスの活動計画などを説明している。また、職員には申し送り時に話した内容を伝えている。	管理者は運営推進会議が2階で行われることもあり、利用者参加が難しいと考えている。家族も用事や勤めがあり、参加が難しい時があり、参加者メンバーが限られた方のみで行われている現状が窺える。今後は地域密着型サービスの特徴を生かすためにも、より多様な方たちの参加が望まれる。検討や話し合った経過の記録も報告することで、現状への理解と共に、協力体制を構築されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1回開催の運営推進会議にて苑での活動や取り組みを報告等しご意見を頂いております。	運営推進会議に参加時、事業所の様子を説明し、協力関係を築くことができるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員で理解を深め会議でも話し合いをし日々のケアに取り組んでいます。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルや検討用紙等、関わる資料と研修記録は整備されており、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の都度議題にあげ、理解を深め日々のケアに取り組んでいます。	虐待防止のマニュアルは1枚ある。開所したとき、「自分がしてほしい介護は何か？」を職員一人ひとりが記入し、「言葉かけ」の大切さなどを職員会議で何度か話しあい、今のところは管理者は虐待が行われていないと考えている。今後も発見時のフローチャートや不適切ケアなどについてのより具体的な研修を継続が望まれる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とされる利用者様はいませんが、今後学ぶ必要があると考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項説明書で詳細を説明し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見ご要望は随時反映させるよう努めています。	職員は利用者には、いろいろな場面を通して何気ない会話から意見や要望を聞き取るようにしている。家族会はまだ実施していないが、面会時や受診などの送迎時等、いろいろな機会を大切にしている。家族からの意見などを聞き、反映させて行きたいと管理者は考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が参加の会議や日々の朝夕の申し送り時等で話し合いをしています。	開所1年目ということもあり、管理者は職員会議・ミーティング等日常のケアの中でも、話しやすい、意見を出しやすい職場環境を心掛けている。これからも風通しの良い関係づくりに取り組もうとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場兼務なので職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は年間計画通りの研修会の参加は実施できない状況でした。今後は積極的に研修を受ける機会の確保に努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に各事業所の管理者意見交換会があり参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にご本人ご家族に困りごと、不安なこと、ご要望、ご意見を頂き安心して生活できるよう努めていくことを伝えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご本人・ご家族様の不安なこと、ご要望を頂き、ご本人の支援にはご家族のご協力が不可欠であることをお伝えし共に支援していく関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様には今できる可能な支援をさせて頂くことを伝え状況に応じて他のサービスの利用につなげる対応についても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様に自分らしく生活して頂く為にそれに寄り添う立場であることを意識しながら関係作りに努めています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用状況やイベント、日常の写真を毎月送付しご本人とご家族様の絆を大切にしながら本人を支えていく関係作りに努めています。	利用者の過ごし方や様子・状況を毎月家族に知らせ、家族と共に支えあう姿勢を持ってその関係を大切にしている。利用者も1年目を迎え、落ち着いて毎日を過ごしており、通院や外出・外泊も家族の協力をもらいながらの支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めています。	これまでの理・美容院などの継続した利用と共に、馴染みのかかりつけ医師への受診や、村上市はお祭りが盛んな地域でもあるので、お祭りへの参加希望等、家族と共に職員も送迎や馴染みの関係への行事や場所に同行することもあり、関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの個性を把握し孤立せずその個性を認め合い自分らしく生活できるような支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し、入院の際はご家族様と連絡をとり関わりを持ちながら支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の生活歴、趣味、嗜好を把握しその人らしく生活ができるよう努めています。	入所の折には、家族から本人の思いや意向を確認することに努めている。また、本人からも、思いや暮らし方の希望把握に努めている。アセスメントの記入を丁寧にし、前事業所や本人家族から情報収集し、把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの生活歴を把握し今までの生活が継続できるようにすることで意欲が向上できるよう努めています。	家族からは利用者のこれまでの過ごし方や様子、状況を確認しており、また前事業所の時に利用していた生活の様子や状況なども聞き取り、把握に努め、家族と共に支えあう関係を大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況を把握しその方が「第2の家」とし苑での生活を営むことができるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成は計画担当の介護支援専門員が主体でご本人やご家族の意向を反映した計画となるよう努めています。	本人がより良い暮らしの継続ができるために、本人の思いや気づきを職員皆で出し合い、それらを管理者と計画作成者(介護支援専門員)が中心となってまとめている。また家族の意見や要望についてはシート欄に直接ご家族に記載してもらうことで、より具体的な介護計画書となっている。モニタリングは毎月実施しており見直しは1年としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容は個別記録に残す他、重要申し送り事項は業務日誌に記入、職員間での情報共有に努めて日々申し送り時での意見を求め改善につなげていけるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われずその時々生まれるニーズに対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民として行事や催しものに参加して頂くようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	苑の連携医とはもちろん連携医以外の医師がかかりつけであっても看護師の指導を仰ぎ受診時は医師への状態報告書を作成し適切な医療を受けられるよう支援しています。	利用者の多くは馴染みの医師によるかかりつけ医となっている。他科受診の必要時には事業所の協力医療機関において適切な医療を受ける事ができている。また、日常的に利用者の健康管理や薬の管理については、隣接施設に常駐する看護師が週1回定期訪問している。利用者の現況の把握に努めてくれるとともに、緊急かつ急変時には相談、指示を仰ぐことができ、利用者・家族・職員の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に情報の共有を図り指示を仰ぎながら職員全体でご利用者様の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された場合、医療機関やご家族と連絡をとり情報交換や相談に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	苑としては看取りを行う方向ではあるが準備段階であり、今後ターミナルケアについて職員全体で理解を深めていきます。	利用開始時において、管理者は利用者が重度化した場合や終末期支援についてを本人・家族に詳しく説明し、家族納得のもとで同意を得ている。開所1年目ということもあり入居者の健康状態は安定した状態にある。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えてマニュアルを作成し職員に周知しています。	利用者の身体状態の急変や事故発生時に備えマニュアルは整備されている。市で用意されている「救急情報シート」を活用し、全利用者の必要事項を記載しておくことで、万が一の時に備えている。事故発生時にはそのシートに個々の薬剤情報や日々のバイタルの記録も併せ持つことで慌てず対応できる備えとしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市で行う避難訓練に全員参加する予定であったが中止となってしまった。今後も積極的に参加していきたいと思えます。	隣接施設の実施する火災訓練に年2回、日中想定訓練に参加している。また災害時の避難に関しては敷地内の隣接施設に避難する事となっている。備蓄についても同様で自事業所内には特に用意されているという程のものはない。	いつ発生するか分からない災害の備えの対策として、特に職員不足となる夜間想定の上での事業所独自の訓練について、慌てず避難誘導ができるように備える事が重要である。職員だけの限界も踏まえ、地域の人や近隣の人々の協力が得られるよう日頃から話し合ったり、訓練時に参加して貰えるような働きかけを期待したい。更にさまざまな災害に備えて、自事業所の食料・飲料水・他備品等の備えをすることも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や意思を尊重し職員間でも情報を共有し声掛け対応しています。	一人ひとりの利用者の人格を尊重し、その人に合わせた対応を心がけている。「プライバシー保護の取扱い」についてもマニュアルの基、職員間で共有できるよう準備されている。研修については開所1年ということもあり、今後、随時検討実施していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや希望を伝えることができ自己決定できるような環境作りや声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく一人ひとりのペースを大切にするよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力を頂き馴染みの美容室に行かれています。苑でも定期的に散髪を依頼しています。職員により爪にマニキュアを塗ることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様には漬物や味噌汁を作ったり、テーブル拭き、配膳・下膳、食器洗い等行って頂いています。	食事は三食全て隣接施設より届き、管理栄養士によるメニューのバランスやカロリー計算等も配慮されて提供されている。味噌汁は基本、自事業所が用意するため、食材刻みや漬物など、食前の準備から食後の片づけまでさまざまな場面で利用者の力の発揮と参加ができています。また、月一回平均で外食や出前など、いつもと違う楽しみも利用者の喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録に残し栄養状態を把握し、一人ひとりの嗜好や禁止食材は職員間で共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後の口腔ケアの実施はタイミングは別々ですが定着しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのペースに合わせ羞恥心に配慮した声掛け介助をしています。	日常の排泄チェックを活かし、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また誘導時や声掛けにも「さりげなく」を心がけ職員の対応にも注意を払っている。事業所の排泄に関する自立に向けた取り組みにより、入居前の在宅時にパット使用から布パンツになるなど改善向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況については朝夕の申し送り時に確実に伝え職員間で共有しています。水分を多めに飲用して頂いたり、乳酸菌飲料を提供したり体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に希望される方はいないので入浴間隔を考慮しこちらから声掛けしています。その中で順番を希望される方には対応しています。	週2回の入浴を基本としており、利用者の思いに添えられるよう対応している。また、季節を感じ寛げるように菖蒲湯やゆず湯など折々に取り入れ入浴を楽しめる工夫をしている。法人には温泉を取り入れた施設もあり利用者の希望や身体状況を配慮しながら温泉入浴し喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の静養は個々に合わせ休息して頂いています。就寝に関しても個々のペースに合わせています。シーツ類も定期的に交換しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードは個別に綴り職員間で情報共有しています。服薬介助についてはマニュアル作成しマニュアルにそった服薬支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみや干し・調理・掃除・壁画作り等々一人ひとりの生活歴、職歴を把握し張り合いや喜びのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合対応できるよう努めています。	本人の思いにより添い、行きつけの美容院に行ったり、お盆にはお墓参りなど、ご家族の協力も得ながら希望外出は可能である。また、月2回、地域のコミュニティーセンターが実施している「転倒予防教室」にも参加するなど気分転換を図っている。	日々の暮らしが楽しくなるように、日常的に散歩や外出ができるような個別の支援の工夫が求められている。今後は近隣との絆づくりに力を入れるなど、気軽に対話したり、ごく普通に利用者が在宅でしていただろう、その人らしい暮らしの継続の検討ができることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は苑で管理しています。希望に応じて買い物代行したり一緒に買い物したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とは気楽に電話でお話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは居心地のよい空間作りを心掛け季節の花を生けたり四季を感じ取って頂けるような壁面作りをしています。	開設して1年と3ヶ月心地よい空間とゆったりとした環境の中、木々の香も感じて落ち着ける環境となっている。居室の入り口には利用者が住んでいた地名が取り入れられ昔を懐かしむ事のできる雰囲気醸し出している。壁面には利用者と共に制作した飾り付けや職員の手による季節の物や花が優しさを添え居心地の良い共用空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは一人ひとり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様の協力を得て馴染みのある家具等を準備して頂きその方に合わせた環境作りを心掛けています。	居室には本人が自分らしく過ごせるよう慣れ親しんだ家具やベット他、持ち込みは自由となっており、自宅に近い環境となるよう利用者は思い思いの居室づくりをしている。作り付けの収納庫もあり整理整頓がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し安全でかつ自立を支援できるよう心掛けています。		